

◆ 称号者大会 兼

全日本弓道選手権大会県選考会

H21. 5. 31(日) 参加者男子25名、女子9名

射手竹村教士、第一介添藤原錬士、第二介添綿松錬士による矢渡しのあと、競技に入る。

吉本会長始め、須田副会長、井倉相談役、竹村副会長の選考委員の厳しいまなざしに、緊張感もみなぎり、粛々と競技が進んでいく。競技は坐射10射で行われ、綿松錬士が8中で優勝する。

閉会式では吉本会長より

★ 「離れ」「残心」特に「残心」での気力の充実が甘い。(心の中での消化が課題)

★ 入場からの体配はゆっくりで、半面「会」が浅く、早い。深く充実した「会」が求められる。

★ 「入場」は可としても「退場」で気合が抜けるのが見られる。気合を抜かないことが肝要である。

★ 一射一射に心をこめて望んでほしい。との講評をいただく。

(競技部 藤原)



▽ 選考結果 (敬称略)

❖ 全日本選手権大会奈良県代表



女子 深田紀美子 男子 西中正

❖ 近畿予選会奈良県代表



男子 竹田浩一、前角 博、藤岡 順  
女子 明瀬綾子 吉岡三保子

◆ 平成21年度 奈良県高等学校弓道選手権大会

6月7日(日) 橿原公苑弓道場

参加者 女子71名 男子111名

女子総合：① 吉田 理映子(高田商業) ② 加藤 美緒(橿原) ③ 藤田 葵(橿原)

女子近的：① 松村 知妃呂(五條) ② 吉田 理映子(高田商業) ③ 菊山 麻未(榛生昇陽)

女子遠的：① 加藤 美緒(橿原) ② 岡田 麻央(郡山) ③ 吉田 理映子(高田商業)

男子総合：① 山中 大輔(平城) ② 佐藤 聖太(平城) ③ 丸 和浩(橿原)

男子近的：① 津田 佑介(奈良北) ② 高間 光司(橿原) ③ 佐藤 聖太(平城)

男子遠的：① 山中 大輔(平城) ② 丸 和浩(橿原) ③ 楠田 雄史(畝傍)

(高体連 高塚)

■ 平成21年度 審査員研修会

5月31日の称号者大会終了後、審査員研修会を実施しました。参加者は35名であり、約60名の有資格者がおられるなかでは寂しく感じました。本年度審査講習会に参加された方々の内から本年度の審査員が委嘱されます。お忙しいとは思いますが、是非参加いただきますようお願いいたします。

研修会内容は、

① 便覧P26～27、P31～32の記載事項の確認。

② 昨年度審査会で話題となった事柄。

③ ハズこぼれをどの位置で判断するのか。←打ち起こし後とすることの確認

④ 20年度研修会内容の確認

地連審査受審者数の推移 等でした。

(審査部 土谷 尚 敬)

## ■ 第64回 国民体育大会 県選考会

### ♣少年の部

6月14日(日)参加者 女子18名 男子18名  
近的・遠的 各12射

女子候補選手

加藤 美緒(檀原高) 鶴留 彩花奈(檀原高)  
岡島 優衣(五條高) 峠谷 亜由(奈良大附属高)  
吉田 理映子(高田商業高)

男子候補選手

山中 大輔(平城高) 丸 和浩(檀原高)  
高間 光司(檀原高) 遠山 雄人(檀原高)  
福本 大祐(王寺工業高)

注:2月の学年別新人大会から今回の最終選考会までの成績を考慮して決定。

### ♣成年の部

6月14日(日) 檀原公苑弓道場(近的8射)

男子: 監督 藤岡 順

選手:長濱正伸、新子修平、山口亮二、(補欠:中島信作)



女子: 監督 西中 正

選手:矢野由起子、吉岡瑞紀、林 秀子、  
(補欠:東中千佳)



No. 5

先日、全弓連から派遣されて、平成21年度JOCコーチ会議に出席してきました。オリンピックに賭ける意気込みにあおられた感じでした。その中で、JOCナショナルコーチアカデミーの紹介があり、「指導者のレベルアップなくしては、チーム、個人のレベルアップはない」「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない」という言葉がありました。共に肝に銘じて、精進したいものです。

(会長 吉本 清信)

## ◆ 第56回 全日本勤労者弓道選手権大会

於: 千葉県匝瑳市

時:6月5日(金)~6月7日(日)

シャープより2チーム出場するも、Aチーム 5中、Bチーム 2中で残念ながら2チーム共に予選通過(7中以上)を果たすことが出来ませんでした。シャープA(藤本聡郎、井上敦央、中島信作)、シャープB(三浦哲、片岡直樹、伊坂隆行) ※Aチームにつきましては、酒井孝典が2的でしたが、体調不良のため井上敦央に交代いたしました。

(井上敦央 シャープ弓道部)

### 特別寄稿 第2回

弓馬術礼法小笠原教場の三十世宗家、小笠原清信氏が昭和42年2月にラジオ・テレビで話されたときの原稿の一部を御分けします。

中笠原大学藤原孝澄

### 立礼・立ってのお辞儀のコツ

お辞儀は相手にするものであり、先ず相手に対しての敬意である。

自己の誠を捧げるに昔からの屈体の礼を行い、又西洋の握手でも屈体しつつ行う等本来の姿である。一番の骨は屈体であり頭を下げるのではないと云う事です。頭の重量は重いので屈体すると先に落ちてしまい、起きる時に頭だけ残して起きる様になります。

胴体に真直ぐにのった頭で屈した時、襟のすかない様に、顎の浮かない様に注意します。特に起きる時が大切です。普通のお辞儀を見ますと、屈する時は丁寧でも起きる時は粗雑です。

屈した反動で起きる様な時もあります。起きる時に相手の心持をしっかりとぎって静かに起きる事がムードのある上品なお辞儀になります。

(以下 次号に続く)